

文書館平成27年度秋季企画展

火山とつきあう 展示資料目録

主催：北海道立文書館

会期：2015（平成27）年11月1日～11月30日

会場：北海道庁旧本庁舎（赤れんが庁舎）

1階5号会議室



ごあいさつ

昭和^{おんたけさん}新山が形成された1943～45（昭和18～20）年の火山活動に関する書類が、今年、北海道立文書館の所蔵となりました。折しも、^{くちのえらぶじま}昨年^{めあかんだけ}の御嶽山や、今年^{めあかんだけ}の口永良部島、箱根、桜島、阿蘇山の噴火、また雌阿寒岳の警戒レベル引き上げなどにより、火山への注目が高まっています。

北海道は、たいへん火山が多い地域です。

火山は、噴火や崩壊などにより深刻な被害をもたらす一方、美しい景観や鉱物資源など、様々な恩恵を与えてくれる存在でもあります。

本企画展では、文書館資料等を通じて、北海道の火山のさまざまな側面をお伝えしたいと思います。

2015年11月

北海道立文書館長

寺嶋 克仁

北海道の火山

世界には約1,500の火山があるといわれており*1、その1割近く、110の火山が日本にあります*2。

北海道はそのうち20（北方領土を含めると31）の火山を有しており、世界有数の火山地帯といえます。

*1 内閣府・防災情報のページ <http://www.bousai.go.jp/kazan/taisaku/k101.htm>

*2 日本活火山総覧（第4版） http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/souran/menu_jma_hp.html

01. 北海道の火山一覧（作成） 地理院地図（国土地理院ホームページ）をもとに北海道立文書館が作成

駒ヶ岳 — 早くから親しまれた山

駒ヶ岳は、渡島半島の噴火湾（内浦湾）に面した火山です。もとは富士山のような姿でしたが、噴火によって頂上部が崩壊し独特の形になりました。

幕末に開港場となった函館から近いため、駒ヶ岳とその周辺は、早くから外国人をはじめ多くの人びとが訪れ親しまれる場所になりました。

02. 駒ヶ岳基本情報（作成）

03. 箱館奉行への書簡「駒ヶ岳に行きたい」 1857（安政4）年 当館所蔵 簿書53 箱館奉行所『米国来翰編冊』

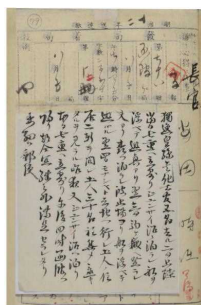
04. ライスの肖像画 1858（安政5）年 原本所蔵 函館市中央図書館『安政五年写 亜美利加来使ライス箱館応接録』所収図（部分）

05. ドイツ皇孫の駒ヶ岳登山 1879（明治12）年 当館所蔵 簿書3712『貴賓接待書類 甲号 明治十二年』

06. 函館と駒ヶ岳の位置図 1874（明治7）年 当館所蔵 簿書10713『稟裁録 下 明治七年』所収の絵図（一部加工）

07. 駒ヶ岳で採取された軽石（実物） 地方独立行政法人北海道立総合研究機構地質研究所所蔵

03



07



樽前山 — 開拓使文書に記録された噴火

樽前山における火山活動のうち、江戸時代から現在に至る第3活動期については、文

書や絵図、写真などの記録からその内容を知ることができます。

明治7(1874)年2月8日に発生した噴火については、開拓使文書からその詳しい経過がわかります。

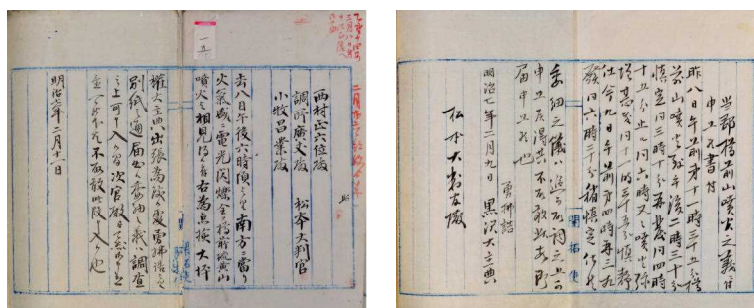
また、現地からの情報は札幌～東京と伝達され、太政官(中央政府)に報告されたのは1ヶ月以上後だったこともわかります。

08. 樽前山基本情報(作成)

09. 樽前山噴火の絵図 1874(明治7)年 北海道大学附属図書館所蔵 船越長善『胆振国勇払郡樽前岳噴火之図』

10. 噴火を報告する文書の伝達 1874(明治7)年 当館所蔵 簿書5782 開拓使東京出張所『開拓使公文録 本庁之部 明治七年二月之分』・簿書10707 開拓使東京出張所庶務課『申奏録 上 明治七年』

10



十勝岳 —記録に残る「泥流地帯」

十勝岳は、1926(大正15)年5月に中央火口丘の崩壊をともなう大噴火を起こしました。

大量の崩壊物と噴出した灰や火山弾は熱い岩屑なだれとなり、残雪を溶かして大規模な泥流を発生させ、美瑛川と富良野川をいっきに流下しました。

この噴火による被害は上富良野・美瑛・中富良野の3か村(当時)に及び、耕地は硫黄や硫酸を多く含む有害な泥土に覆われほぼ壊滅しました。住宅・学校等公共設備の流失・全半壊などの被害も大きく、死者・行方不明者は、144名にもものぼる大惨事になりました。

11. 十勝岳基本情報(作成)

12. 泥流がもたらした惨状を詳細に報じる新聞記事 1926(大正15)年『北海タイムス』5月26日

13. 泥流被害写真 1926(大正15)年 当館所蔵 P-2/374『十勝岳大爆発被害写真』

腰まで泥流に浸かった罹災者／泥流がひいた後に残された夥しい流木

14. 富良野方面の災害状況を報告する電信文 1926(大正15)年 当館所蔵 A7-1/521 北海道庁『十勝嶽爆発被害復旧工事完了認定書類 昭和七年』

15. 十勝岳爆発の泥流分布図 1926(大正15)年 『十勝岳爆発概報』田中館秀三著 所収図

16. 泥流被害を題材とした小説 三浦綾子『泥流地帯』新潮社刊(単行本初版は1977年)

刊)

13



15



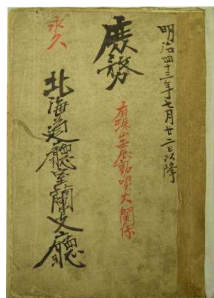
有珠山1 一有史以降の噴火—

有珠山は、長い休止期間を経て、1663（寛文3）年に有史以降最大規模の噴火により活動を再開しました。それ以降、数十年ごとに噴火活動が繰り返されています。

これら噴火活動の観測結果が蓄積されているため、有珠山は日本で最も研究が進んでいる火山の一つです。

17. 洞爺湖・有珠火山地域の地形（ジオラマ） 北海道大学総合博物館所蔵
18. 有珠山基本情報（作成）
19. 有史以降の噴火活動・位置関係図（作成）
20. 松前藩の歴史書『福山秘府』に見える1663（寛文3）年噴火の記事 1780（安永9）年
当館所蔵 旧記1255 松前広長『福山秘府』 ※開拓使筆写本
21. 幕府の公的記録『徳川実記』に見える1663（寛文3）年噴火の記事 『徳川実記 第4編』 ※活字本
22. 松前藩の歴史書『松前年歴捷徑』に見える1768（明和5）年噴火の記事 1799（寛政11）年頃 当館所蔵 旧記1228 松前広長『松前年歴捷徑』 ※開拓使筆写本
23. 1822（文政5）年噴火による犠牲者の記録 1822（文政5）年 当館複製所蔵（原本所蔵：有珠善光寺） B43/35 『内過去帳』（有珠善光寺文書）
24. 1910（明治43）年噴火の経過や避難の様子などを記録した書類 1910（明治43）年
当館所蔵 A7-2/158 北海道庁室蘭支庁『庶務 有珠山震動噴火関係』
25. 有珠山噴出物の堆積層（はぎ取り標本実物） 1663（寛文3）年噴火の堆積層・1822（文政5）年噴火の堆積層 地方独立行政法人北海道立総合研究機構地質研究所所蔵

24



25



1910（明治43）年の噴火から30年余が経った1943（昭和18）年12月末、有珠山は再び火山活動を開始しました。

有珠山本体の東方で、隆起、噴火、昭和新生山と溶岩ドームの形成などの諸活動が、'45年9月まで続きました。

戦時下であったため、学術的調査が満足に行われず、人心不安が高まるのを避けるため報道は最低限にしかなされないという、特異な様相を呈しました。

26. 噴火の経緯（作成）

27. 有珠の地殻変動が鎮静間近であると伝える新聞記事 1944（昭和19）年 『北海道新聞』5月16日

28. 火山灰を、セメント代用品「神助の戦力」と表現する新聞記事 1944（昭和19）年 『北海道新聞』9月7日

29. 観測をする三松正夫（写真） 1944（昭和19）年 三松正夫『昭和新生山生成日記』より

30. 三松正夫『昭和新生山生成日記』（表紙写真） 1962（昭和37）年刊

31. ミマツダイヤグラム 1944（昭和19）年 三松正夫『昭和新生山生成日記』より

32. 観測機器のない中、工夫により定点観測をする三松正夫 三松三朗『火山一代』（1990年）より

『昭和新生山生成日記』及び『火山一代』からの引用は、三松正夫記念館の了解を得ています。

33. 『有珠岳地震・九万坪噴火関係書類』 1943～1944（昭和18～昭和19） 当館所蔵 A 7-3/733

伊達警察署長から本庁警察部長宛て報告（7月15日付け）

34. 『噴火記録写真 自第1号 至第10号 拾枚』（写真） 1944（昭和19）年 当館所蔵 A 7-3/734 『噴火記録写真 自第1号 至第10号 拾枚』

公文書を作成した人々 1944（昭和19）年6月23日撮影／第1回爆発（23日）の火口

1944（昭和19）年6月24日撮影／警備関係者たち 1944（昭和19）年6月24日撮影

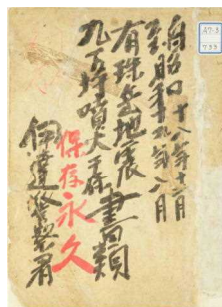
／約2km離れた壮警駅付近から見た火山 1944（昭和19）年7月20日撮影／爆風でなぎ倒された樹木（西湖畔）

1944（昭和19）年7月20日撮影／中島苗圃付近より火山の姿になりつつある遠望

1944（昭和19）年8月6日撮影／中島苗圃付近より見た

フカバ集落あたり 1944（昭和19）年8月6日撮影

33



34



1977～78年噴火

1977（昭和52）年8月6日未明、火山性の地震が多発し始め、翌7日、有珠山は山頂から噴火し、約1週間、大量の軽石・火山灰を降らせました。

一旦噴火は止みますが、11月に噴火を再開し、1年近く活動を続けました。

この噴火では、札幌や遠く網走でも火山灰が観測され、洞爺湖の湖面が軽石で覆われている様子が全国ニュースで報道されるなどして、注目を集めました。

35. 噴煙を上げる有珠山（第1期噴火）（写真） 1977（昭和52）年 当館所蔵 P-2/345
北海道総務部有珠山噴火災害対策事務局『有珠山噴火災害写真 その1』
36. 降灰量状況（1977. 8. 13現在） 1980（昭和55）年 北海道総務部有珠山噴火災害対策本部事務局編『1977年有珠山噴火災害対策の概況』掲載図を加工
37. 不安な中「火まつり」が行われたことを報じる新聞記事 1977（昭和52）年 『北海道新聞』 8月7日朝刊16面
38. 火山灰・火山礫^{れき}で埋もれた乗用車（写真） 1977（昭和52）年当館所蔵 P-2/344 北海道『有珠山噴火災害写真 8月7日～17日』
39. 噴出した軽石で水面が覆われた洞爺湖（写真） 1977（昭和52）年当館所蔵 P-2/344 北海道『有珠山噴火災害写真 8月7日～17日』
40. 火山灰に覆われた野菜畑（写真） 1977（昭和52）年当館所蔵 P-2/344 北海道『有珠山噴火災害写真 8月7日～17日』
41. 土石流に埋もれた集合住宅（写真） 1978（昭和53）年 当館所蔵 P-2_141 『有珠山泥流災害写真集』

35



41



2000年噴火

2000（平成12）年3月27日から前兆地震が多発し始め、31日、噴火が始まりました。

この噴火の活動地域は西北側の山麓で、一部居住地にまで及んでいたため、建物や国道を始めとするライフラインに、大きな被害が出ました。

この噴火の際には、“史上初めて”噴火前に緊急火山情報が発表され、噴火時には既に住民の事前避難が完了していました。

しかし、次の噴火が同じように進行するとはかぎりません。

地元では、観測や、防災の備え、意識向上が継続的に行われています。

42. 噴火前に緊急火山情報が出されたことを報じる新聞記事 2000（平成12）年『北海道新

聞』 3月29日夕刊1面

43. **2000年噴火時の北海道の活動記録** 2000（平成12）年 『平成12年有珠山噴火における保健医療活動』・『平成12年有珠山噴火救護活動』・『2000年有珠山噴火災害・復興記録』
44. **洞爺湖有珠山ジオパークの紹介**（作成）

43



火山の恵み— 温泉

北海道は、火山活動がもたらす温泉資源の豊富さで知られています。

2013（平成25）年度の統計によると、道内の温泉地数は全国1位の249か所、宿泊利用人数も1位で延べ1,200万人以上でした*1。

全国的に有名な温泉が多く、中でも登別温泉は、北海道でも珍しく、早くも明治初期から湯治客のための宿泊施設が整備されていました。

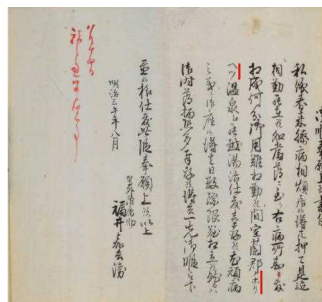
*1 ただし、温泉地数及び利用人数とも火山性・非火山性温泉を合わせた数字です。

45. **火山性温泉が湧き出す仕組み** 地方独立行政法人北海道立総合研究機構環境・地質研究本部地質研究所制作『ニセコの温泉～火山と温泉～』より引用
46. **登別地獄谷での記念撮影**（写真） 1918（大正7）年 当館所蔵 B50/301 荻野家文書
47. **温泉入浴風景**（写真） 1932（昭和7）年 当館所蔵 P-3/80『鯉川温泉』
48. **登別温泉滝本旅館の営業案内** 昭和初期 当館所蔵 B1-2/1927 柳田家資料
49. **湯治につき休暇願** 1870（明治3）年 当館所蔵 簿書205 開拓使出張所庶務掛『諸願伺留 其二 明治三年』
50. **松浦武四郎の温泉入浴** 1858（安政5）年当館所蔵旧記1157 『久摺日誌』

46



49



火山の恵み— 硫黄

硫黄は、火山ガスの噴出口の周りに付着するなどしていて発見や採取がしやすく、精

製も容易なので、古くから利用されてきました。

消毒、漂白、硫酸や火薬の原料、ゴムに弾力を持たせる添加剤、人工肥料の原料など、とても広く用いられる元素です。

北海道では、早い時期から硫黄の採掘がさかんに行われ、明治後期から大正にかけては国内生産の60%を占めていました。

※ 現在、日本では原油から分離される硫黄が使われており、稼働中の鉱山はありません。

51. **硫黄鉱山位置図** (作成) 資料を紹介している硫黄鉱山の位置を図示
52. **択捉島・モヨロ山の図** 1879 (明治12) 当館所蔵 A4/311 開拓使東京出張所『開拓使公文録 明治十二年 本庁往復』
53. **恵山の図** 1876 (明治9) 当館所蔵 簿書5655 開拓使東京出張所『開拓使公文録 本庁伺 全 明治九年從一月至十二月』
54. **アトサヌプリ硫黄山**
1 : 1894 (明治27) 年 当館所蔵 P-1/553 石川直治 (北海道庁技手) 撮影『明治二十七年石狩川上流其他写真』より / 2 : 1895 (明治28) 年北海道大学附属図書館所蔵「釧路国川上郡アトサヌプリ硫黄運搬之景」
55. **アトサヌプリでの硫黄借区開坑願書** 1822 (文政5) 当館所蔵 簿書1889 開拓使根室支庁記録課『本庁往書 共二冊 第貳号 明治九年自一月至十二月』
56. **北海道産硫黄を大阪造幣局に販売することに関する文書** 1877 (明治10) 年 当館所蔵 簿書1988 開拓使東京出張所勸業課物産係『石炭硫黄木材類集 明治十年中』
57. **国後島・瑠々俤硫黄鉱山経営関係書類** 1901~03 (明治34~36) 当館所蔵 柳田家資料

53



56



火山の恵み— 景観

火山の噴火活動は人々の生活に深刻な被害をもたらすことがありますが、一方で活動により自然の絶景が形成されることもあります。

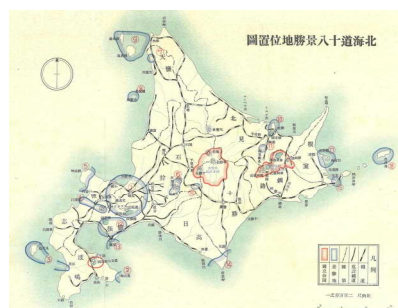
北海道では、明治の頃は大沼や登別が火山活動に由来する景観として有名でした。

しかし、大正から昭和期になると大雪山と阿寒が北海道らしい原始的な風景で全国的に有名になり、1934 (昭和9) 年にこの2つが国立公園に指定されます。

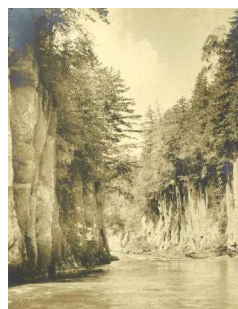
また、この間北海道では、郷土の自然・風景を見直す機運が高まり、1935 (昭和10) 年に道庁により18の景勝地が指定され、その3分の1が火山活動に関連した景観でした。

58. **北海道18景勝地** 北海道景勝地協会編『北海道の国立公園と景勝地』 1936（昭和11）年刊行
59. **層雲峡**（写真） 北海道庁編『北海道写真帖』 1936（昭和11）年刊行
60. **摩周湖の景観**（写真） 北海道庁編『北海道写真帖』 1936（昭和11）年刊行
61. 『**大雪山国立公園候補地**』 1933（昭和8）年 札幌鉄道局編
62. **大雪山登山路略図** 札幌鉄道局編『大雪山 国立公園候補地』 1933（昭和8）年刊行
63. 『**阿寒、屈斜路、摩周湖巡り**』 札幌鉄道局編 1934（昭和9）年刊行
64. **阿寒国立公園の鳥瞰図** 阿寒国立公園観光協会編『阿寒』 1937（昭和12）年刊行

58



59



本展示会における火山に関する記述は、以下の書籍・ウェブサイトを参考に作成しました。

- ◆北海道における火山に関する研究報告書（北海道防災会議）
- ◆日本の活火山データベース（国立研究開発法人産業技術総合研究所地質調査総合センター）
- ◆日本活火山総覧（気象庁）

北海道立文書館は、**北海道の歴史に関する文書や記録**などを収集し、保存するとともに、これらの資料を利用していただくための施設として1985（昭和60）年に設置され、今年で**30周年**を迎えます。

収集・保存・利用の対象となる資料は次のとおりです。

- ◇公文書：北海道及びその前身機関など、公的機関の文書
- ◇私文書：北海道の政治・経済・社会等に、大きな影響を与えたり、北海道の特色を示す、**企業・団体・家・個人**の文書
- ◇刊行物等：公文書・私文書の内容を補う印刷物や、公文書・私文書を理解するために必要な書籍等

閲覧室

本会場の隣にあり、上記の資料を閲覧利用することができます。

月～土（第3木曜日、祝日・休日を除く） 8：45～17：00

常設展示室

本フロアの南側にあり、次の5コーナーで構成されています。

- ^{もんじよ}文書が語る北海道の歴史
- 箱館奉行所とその文書
- 赤れんが庁舎の紹介
- 記録史料を残す
- 小展示「文書を守る」

- 1981年 3月 知事の諮問機関である懇話会が「北海道立文書館の設置に関する基本的な事項についての意見」を提出
- 1985年 7月 **北海道立文書館を開館**
- 1986年 6月 **古文書解読講習会**を開始（現・解読講座）
- 〃 7月 開館1周年記念講演会を開催
- 1988年 7月 開館3周年記念講演会を開催
- 1990年 7月 開館5周年記念講演会・特別展示・古文書解読講習会を開催
- 〃 9月 市町村に出張して開催する**古文書教室**を開始
〔この年〕**道内私文書発掘調査**開始（～2002年）
- 1995年 7月 開館10周年記念講演会・特別展示を開催
- 1996年 4月 公文書の評価選別が、保存期間満了時から保存期間中に変更
- 2001年 4月 **展示室の土日・祝日開室**を開始
- 〃 12月 **ホームページ**を開設
- 2004年 6月 **箱館奉行所文書**167点、国の**重要文化財**に指定
- 2005年 4月 **閲覧室の土曜日開室**を開始
- 〃 11月 **資料検索システム**公開開始
- 2006年 4月 出先機関としての文書館から総務部人事局法制文書課の内部組織の文書館に改組
- 2010年 6月 開館25周年記念として「公文書にみる戦後の北海道」展を道政広報コーナーで開催
- 2012年 2月 **デジタルアーカイブ**開始
- 2014年 8月 **開拓使文書**7,832点、国の**重要文化財**に指定
- 〃 10月 指定記念行事として特別展・講演会等を開催



北海道立文書館

〒060-8588 北海道札幌市中央区北3条西6丁目 北海道庁旧本庁舎（赤れんが庁舎）内

URL <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/sm/mnj/index.htm>